

# 「生業を返せ、地域を返せ！福島原発訴訟」結審



生業を返せ、地域を返せ！ 結審前集会以て

## 国と東電の責任を明らかにする

「生業を返せ、地域を返せ！」福島原発訴訟が、3月22日に福島地裁で結審しました。この生業裁判は、福島県内59自治体全てから原告が参加し、約4200名が国と東電に現状回復と損害賠償を求めている裁判です。農民連会員も約400名が原告に加わり、2013年3月の提訴から4年間闘い続けてきました。3月17日には、前橋地裁で原発事故被害者が提訴していた訴訟の判決が言い渡され、「国と東電は、巨大津波は予見でき、対策をすれば事故は防げた」とし、原発事故を巡る集団訴訟で初めて東電と国に賠償責任を命じた直後であり、生業裁判も必ず勝利しようと熱気あふれる行動が行な



福島地方裁判所を人間の鎖で包囲



結審日集会でスピーチをする菊地弁護士

われました。

結審日には、公判前集会、福島地裁へのデモと4万筆の署名提出、裁判所を人間の鎖で取り囲むスタンディング、俳優の宝田明さんの講演会、模擬法定が行なわれ、これまでの意見陳述が紹介されました。最後に行なわれた報告集会では、原告団長の中島孝さんが、「今日の結審日を一つの結節点とし、「公正な判決を求め署名」を100万筆裁判所へ提出し、あらゆる被害者が救済されるまで頑張っていこう」と呼びかけました。判決は、10月10日言い渡しの予定です。

## 主権者としての尊厳を回復する闘い

裁判では「20ミリシーベルト以下の放射線被曝は何らの権利侵害にもあたらない、福島県民はがまんしろ」という国、東電の基準を変えることを求めています。この裁判は、主権者としての尊厳を回復する闘いでもあります。今の福島を次の世代に渡さなければならぬ大人の一人として、泣き寝入りしないで声を上げ続ける。それが脱原発につながる。私たちは犠牲者では終わりません。

## 生業訴訟の主な争点

原告の主張	被告(国・東電)の主張
<p><b>過失の有無</b></p> <p>長期評価に基づいて電源喪失の危機になりうる津波の来襲を予見できた。重要設備や機器の水密化などによって結果を回避できたのに東電は対策を怠り、重過失がある。国は規制権限を適時適切に行使しなかったのは著しく不合理</p>	<p>長期評価は学者間で異論があり、科学的知見として不十分で、対策をとったとしても津波の規模が違い結果は回避できなかった</p>
<p><b>現状回復</b></p> <p>放射性物質による汚染を受忍しなければならない理由はなく、事故前の空間線量レベルまで引下げる法的義務がある</p>	<p>事故前の空間放射線レベルまで引下げることは技術的に困難。仮に可能であっても莫大な金銭がかかるので不可能</p>
<p><b>賠償水準の妥当性</b></p> <p>中間指針などは被害実態に見合ったものではない。精神的苦痛に対する賠償は面的に拡大され、終期は繰り下げられるべき。賠償水準の引上げも必要</p>	<p>中間指針などの内容は合理的で相当なもの。年間20ミリシーベルト以下の放射線被曝は何らの権利侵害にも当たらない</p>

## 21日の口頭弁論では4名の原告が法定に立ち、最後に原告団事務局長の服部浩幸さんが意見陳述しました。

二本松市、旧東和町でスーパーマーケットを親の代から営んできました。原発事故直後は、隣接する浪江町からの避難者や地域住民の方が食糧を求め殺到しました。混乱した日が続く中で、子どもたちだけでも避難させるか、夫婦で話し合いをしたこともありましたが、しかし、新幹線も止まっており、遠出できるほどのガソリンも時間もありませんでした。何よりも子どもたちと離れたくなかったというのが、当時の正直な気持ちです。

生業裁判に関わるようになり、想像すらできなかった被害者の様々な苦悩を知りました。目の前に突きつけられた「帰還困難」という現実を受け入れられない避難区域の住民。二重生活のために、我が子の成長の時間さえ共有できなかった区域外避難者の家族。除染すらされない土壌の上で、将来の健康に不安を抱えながらも、必死で努力を重ねる農家。そして、周りの人に気遣い、「不安だ」と、心の叫びを上げることさえためらう多くの福島県民。

私は平凡に、誠実に商売を続け、地域の人たちと自然の恵みに囲まれながら、老いていきたかった。泥にまみれて遊ぶ、子どもや孫たちの成長を見守りながら暮らしたかった。そんなささやかな幸せを夢見る権利さえも奪われてしまったのです。それでも私たちはここで生き続けます。私たちに、己の判断に従って悔いのない人生を送る権利があります。そして原発、「核」というものに誰も怯えずに生きることができるようになるまで、私たちは訴え続けます。

裁判官の皆様にお願ひすることは、我々人類が犯した過ちを素直に認め、被害者が新たな希望へと歩み始めることができるよう後押しをしてもらいたい、ただそれだけです。勇気と正義に則った判決が下されるよう切に願って陳述を終わります。

## 農民連フラッシュ flash

### 重税反対、納税者の権利守れ

3月13日重税反対統一行動が開かれました。貧困と格差の広がる中、安倍政治の暴走と合わせ、暮らしは困難さを増しています。福島市で行われた集会では、人間らしい暮らしを取り戻すために団結してたたかいを広げていこうと参加者全員で確認、確定申告会場までパレードを行い市民にアピールしました。



### 原発ゼロを福島から!

3月18日「原発のない福島を! 県民大集会」が5700人の参加者で開かれました。事故原因の究明も生活環境再建も進まない中で避難指示解除が進められ大きな不安が広がっています。事故から6年「フクシマ」の思いを風化させることなく、原発ゼロを福島から発信しよう「原発NO」のプラスターを全員で掲げました。



NOTE

青年部の活動、地元の農や食のことをリレーで紹介

### 若き農業者のつぶやきの一と せいねんぶ農人

就農3年目の相田恭平さん。毎年「おいしいミニトマトを作り喜んでもらいたい」と考えながら作業をしている。今年初めて作るミニトマトの品種は学校給食に出せるよう頑張りたいと意気込む。会津農民連期待の青年だ。



byさとう